

ひだまり だまり

2011 Vol. 2

もくじ

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

平成23年3月1日 第2号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

秋田大学オフィシャルいぶりがっこ製造プロジェクト	1
後援会活動報告(後援会長), 就職・進学が決まった学生からメッセージ	2
学生の就職活動をどう支えていくか(就職委員長), 就職内定状況	4
就職情報室利用学生インタビュー／縁あればこそ(旭水会のご案内)	5
第1回ホームカミングデーの開催について／愛称決定／大学・学部関係行事予定	6



秋田大学 オフィシャルいぶりがっこ製造プロジェクト

秋田県の郷土食として、燻した大根を漬物にした『いぶりがっこ』というものがあります。『秋田大学オフィシャルいぶりがっこ製造プロジェクト』は横手分校開設をきっかけに始まりました。横手市山内三又地区営農生産組合、横手市役所、北都銀行など多くの方々の協力の中、食生活研究室の学生が主体となって活動しています。

いぶりがっこ発祥の地といわれる山内地区で毎年開催されている、いぶりがっこの品評会『いぶりんピック』の初代優勝者が、私たちの師匠である高橋篤子さんです。そのレシピは『金樽(きんだる)』というブランドに使用され、首都圏でも販売されています。

平成21年度は、大根の栽培から漬け込みまで携わり、秋田駅で試食アンケートも行いました。製品の名称は、いぶりがっこの「いぶり」と、みんなで作り上げたという意味のeverybodyで「いぶりばでい」と名付けました。

平成22年度は昨年の活動に加え、自分たちの専門外であるマーケティングにも挑戦しました。基礎知識を学ぶために大学や銀行の力を借りてマーケティング講座を受講

し、自主的に会議を立ち上げ、商品コンセプトやパッケージ案の立案を行いました。そこで学んだことを活かして商談会にも挑戦した結果、地元スーパーと商談が成立し販路を開拓することができました。さらに今年度は、学生の言葉で情報を発信する場として、ブログやツイッターを活用しました。

これらの活動を通して大学内だけではできないことが経験できました。商談会ではプロのバイヤーを相手に商談をしたり、山内では地域の方々と一緒に作業をしたり、世代や立場を超えた多くの方々と交流ができました。また、メディアに取り上げられている活動はほんの一部で、この他にも横手市や仙台市での発表、その準備などの活動にも取り組んできました。その中で生まれた困難を共に乗り越えたことで、チームで働く力を身につけることが出来ました。ここで得られた経験を社会に出てからも活かしていきたいと思えます。

教育文化学部地域科学課程 生活者科学選修 食生活研究室4年次
阿部由佳理・市川愛実・上松明日香・斎藤勇希
田山希美・長谷川聡・松井良枝・村上梨紗

後援会活動報告

教育文化学部後援会 会長 伊藤 勝

今回の情報誌第2号により、後援会へのご理解を更に深めていただきたく、後援会の活動について紹介させていただきます。

後援会は、教育文化学部の教育活動に援助協力することを目的として、秋田県を7地区(県外は中央地区に所属)に分け各地区会の理事や総代の皆様が中心となって運営しております。今年度は、6月末に理事会、総代会を開催し、それを受けて、10月、11月に各地区会を開催しました。その際には、大学の先生がご出席くださり、就職状況をはじめとし様々な情報を提供してくださいました。

後援会の事業は、卒業生の完全就職の実現に向けた支援です。学生たちの就職活動のための施設や事業の充実を図るために、就職情報室の開設、就職に関係したセミナーや講座の開催、企業説明会等を大学と連携を取りな



平成22年度の理事会・総代会の様子

がら財政面での応援をしております。これらの施設や事業を積極的に利用して就職活動をしている学生と、漫然と構えている学生とでは、明らかに就職状況に差が生じていることを聞いて、後援会の存在意義を再認識しているところです。

就職難の時代にあって秋田大学の学生の就職率が高いことを伺い、秋田大学教職員の皆様のご尽力に感謝しております。また、一層の学生たちの健闘を期待して、後援会の活動報告とさせていただきます。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

平成22年11月6日(土)に開催した中央地区会にて、4年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く、今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず、学生にとっても参考になる内容です。

教員採用試験を振り返って

教育文化学部 地域科学課程
政策科学選修 鈴木 斐子



私の中で「教師になりたい」と強く思えたきっかけは、大学生活の中で経験した教育実習や塾講師のアルバイト、児童相談所、秋田市内の学校でのボランティア活動です。こうした経験を通じて、たくさん子どもたちと関わり合う中で、子どもたちの成長の瞬間に携わることができることの喜びや感動は何にも代えがたい尊いものだと実感し、これから先もずっと子どもたちと共に成長し続けていきたいと強く思ったからです。

元々私は社会科の教員免許取得に向けて学んできたのですが、本格的に教員採用試験に向けて動き出すと、大学受験の時に力及ばず、本来目指していた国語科の教員免許取得を諦めたことに対するもやもやが大きくなってきました。そんな時、私の話を聞いて下さり、背中を押してくれたのが就職情報室の方々や国語教育の先生方でした。教員採用試験に向けて本格的に動き出すというその時期に、国語科の教員免許を取得することを決意したことは、私にとってとても大きな決断であり、当

然つらいこともたくさんありました。それでもこうして頑張ったのは、まぎれもなく親身に話を聞いて下さった就職情報室の方々、先生方、そして共に教員を目指す仲間たちの存在があったからです。教員採用試験は決して一人で乗り切ることができるものではありません。仲間と共に同じ目標に向かって努力することで、自分を奮い立たせることができ、気持ちを維持し、そして向上させることができました。私がこうして夢を叶えることができたのは、今まで応援して下さったすべてのの方々のおかげです。これからは秋田大学での学びを生かして、ふるさと秋田の教育に貢献していきたいです。

伝えたい言葉

教育文化学部 国際言語文化課程
欧米文化選修 澤田 梓



秋田大学に入学してから早5年、充実した学生生活の中でも最も印象に残っているのは1年間の英国留学です。滞在中は異なる国籍や人種の方々と交流したり、授業で学んだ欧州文化を直接体験することができ、とても有意義に過ごすことができました。しかし、

楽しいことばかりではなく、笑顔の数だけ涙することもありました。日本では経験できない様々な挫折を通して、私はたくさんのことを学びました。中でも強く感じるのは、「感謝の気持ちを持つこと、表現することの大切さ」です。海外に行くと日本で当たり前のことが通用しないということがよくあります。そのような環境にいと、最初はストレスを感じてしまいます。しかし、その違いや変化に対応できるようになると、些細なこと一つひとつに大きなありがたみを感じられようになります。現地の多国籍な職場でインターンシップをしていた際、同僚の温かい一言やさりげない気遣いに励まされることが多々ありました。どうしたら、一人ひとりにうまく感謝を伝えられるだろうか。私は英語だけでなく、それぞれの国の言葉で感謝を表現するようにしました。すると、誰に対しても「Thank you」と言っていた頃よりずっと、大きな喜びの返事が彼らから返ってくるようになりました。感謝の気持ちというのは言葉で表現することによって、より実直に相手に伝わるもの、そしてその方法は一つだけではない、ということを実感しました。

短い間でも一期一会の心で接してくれた人々。海を越え、遠く離れていても親身に相談に乗ってくれた友人たち。休学中も気にかけて下さった秋田大学の方々。共に励まし合ったゼミの仲間たち。就職活動や卒業論文で的確な助言を下された先生や卒業生の方々。そして、いつも背中を押し、全力で応援してくれた家族。卒業を迎える今、全ての人々に「ありがとう」と伝えたいです。

公務員試験を通じて

教育文化学部 地域科学課程
政策科学選修 **鈴木 要**



「公務員として働きたい」という漠然とした思いを持って秋田大学に入学してから間もなく4年が経とうとしています。父が秋田県職員として働いている姿をみていたので、公務員となって人の役に立つ仕事がしたいと考えていました。しかし、入学式の後に開かれた新入生の保護者へのガイダンスで、公務員はおろか民間企業への就職さえ難しいという状況があるという話があったことを母から伝えられ就職に対してとても大きな不安を感じました。

1年次の春に受けた公務員試験の模試をきっかけに大学生協が行っている公務員講座というのを知り3年次の6月頃から本格的に試験勉強を始めました。公務員試験は長期間に及び、試験に出題される範囲の広さや難しさに苦しんだり、毎週のように続く模試の結果から試験に対して不安を感じたりと辛い日々が続きました。

公務員試験を通して周りの方々から大きく支えてもらっていることを強く感じました。友人がいなければ公務員試験を乗り越えることも内定をいただくこともできませんでした。家族にも様々な面で支えてもらいました。私は、高校進学の際に志望校に

合格できず私立の高校に通うことになったため受験に関して家族に大きな不安を与えてしまっていました。公務員試験で第一志望から内定をいただけたことが恩返しになればと感じています。

こうして勉強できることが当たり前のことだと思っていましたが、目標に向かって努力できたことはとても幸せなことであることを大学生活で学ぶことができました。これまで自分が支えてもらったことに感謝の気持ちを忘れずに、これからは周りの人々を支えていけるよう成長していきたいです。

進路の決定とそのために行ったこと

教育文化学部 学校教育課程
発達科学選修 **富澤 望**



私は秋田大学大学院学校教育専攻学校教育専修へ進学をすることとなりました。

この大学院への進学という進路は、大学に入学した当初の私は全く想定しておらず、全く別の進路を目指していました。しかし、大学に入って詳しく勉強するにつれて、目指していたものが自分の思い描いていたものとは全く違うものであると感じ始め、このままの進路でよいのかと迷いを覚えました。おそらく、これを読む方の中にもそのような感覚を持っている方がいるのではないのでしょうか。

進路をもう一度決めるために、私はさまざまなことを体験しました。企業の就職説明会への参加をはじめ、就職とは全く関係のないようなイベントにも参加し、その中で私の興味のある分野はいったい何であるかというのを探していきました。進みたい進路を最終的に決定したのは、3年生の3月というぎりぎりの状況ではありましたが、これらの体験の中で自身が感じたことや、他の参加者たちとの交流で得られた意見というのはとても貴重なものになったと感じています。

また進路の決定に際して、親からの意見というのも一つの重要な情報であったと思います。私たち大学生はどうしても進路についたさらに先のことについてイメージするのは難しいものだと思います。そういったときに、実際に働いている社会の先輩からの意見というのは説得力があり、非常に助けになるものだと思います。

大学院入試に向けての勉強方法は、時間があまりなかったこともあり完璧な勉強法ではないと思いますが、一応紹介したいと思います。まずは、大学院の問題を入手することから始め、実際に解いてみて問題の傾向と自身の弱点を把握します。私は特に教育史や教育時事が苦手だったので、大学院の入試までそこに重点をおいて勉強をし、無事に合格することができました。

抽象的な内容になってしまいましたが、読まれた方のお役に立てれば幸いです。

[学生の就職活動をどう支えていくか]

就職委員長 中村 裕

企業から内定を得た学生117名、公務員採用試験合格者36名、法人採用試験合格者6名、教員採用試験合格者42名、大学院進学予定者19名、これが平成23年2月3日段階での教育文化学部の4月以降の進路先を示すデータです。少子化、経済の低迷、行政改革の進行が、学生諸君の就職活動の環境を極めて厳しいものになっていることは言うまでもありません。

こうしたなかで、就職活動を進める学生諸君に対して大学ができる限りの支援を行うことが不可欠であることもまた、言うまでもないことです。ただ、大学の支援の目的は、学生諸君が大学、学部、教職員の支援などを必要とすることなく、自分で志望に向かって活動できるようになること、つまり、学生諸君の自立を促すことに他なりません。自分は何をしたいのか、どのような活動を通して能力を高めていきたいのか等々のことを考え、判断するのは学生諸君自身しかできないのです。就職活動とはある意味で孤独な作業であり、まずはその孤独さに耐えることが学生諸君に求められます。

とは言っても、最近の大学生は大学に対して「就職活動に際して面倒見が良い」ことを求めている

ようです。その場合、「面倒見が良い」とはどういうことなのでしょう。教職員が民間企業等を訪問して、人事担当者に「うちの大学の学生をよろしく」と学生の就職先の開拓を行うことでしょうか。多分、名刺は受け取ってもらえるでしょう。しかし、大学の就職担当者の名刺がその大学の学生就職状況の好転につながるほど世の中は甘くはありません。「業界の情報について教えて欲しい」—ガイダンス、セミナー等でそうしたことに関して情報提供は行います。しかし、現在売れ筋の業界・企業が10年後どうなるかということに関しては保証の限りではありません。「エントリーシートの書き方、面接の受け方に関して指導して欲しい」—アドバイスは行います。しかし、エントリーシートに書くべき内容(何を頑張ったのか、10年後どういう部署で何をやっているのか)を承知していなければならないのは、学生諸君なのです。

充実した大学生活のなかで人事担当者にこの点に関しては自信があります、と言えるようなものを修得すること—それが学生諸君にとっての就職活動の第一歩です。そのために環境整備の一端を就職委員会は担っていきます。



昨年11月に開催した「内定者と3年生の懇談会」にて学生に話す中村就職委員長



写真下: 昨年8月に就職委員会にて開催した企画「首都圏で働く卒業生と話そう」の様子

(2月末現在)

就職内定状況	学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他
				合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	
教育文化学部	学校教育課程	113	15	93	32	61	60	19	41	64.5	59.4	67.2	5
	地域科学課程	66	2	61	18	43	44	13	31	72.1	72.2	72.1	3
	国際言語文化課程	68	5	59	18	41	45	12	33	76.3	66.7	80.5	4
	人間環境課程	61	4	54	28	26	46	23	23	85.2	82.1	88.5	3
	小計	308	26	267	96	171	195	67	128	73.0	69.8	74.9	15
教育学研究科	32	0	28	10	18	20	6	14	71.4	60.0	77.8	4	
合計	340	26	295	106	189	215	73	142	72.9	68.9	75.1	19	

就職情報室 利用学生インタビュー

後援会の会費で運営されている就職情報室。普段学生にどのように利用されているのか、就職情報室を利用している学生にインタビューを行いました。



左から 答えてくれた学生
学部学校教育課程 教科教育実践選修3年次 小松美由妃さん
研究科教科教育専攻 家政教育専修1年次 齊藤遥子さん
学部学校教育課程 障害児教育選修3年次 小林 生さん
インタビュアー 教育文化学部 事務部総務担当 茂木美奈子

茂木:みなさんは就職情報室をどれくらい利用していますか?

齊藤遥子さん(以下齊藤):私たちみんなで「スタージュ」っていう教員採用試験の勉強会の運営委員をやっているの、週に1回スタージュのときに必ず来ます。

茂木:他に個人的に利用することはありますか。

小林生さん(以下小林):教員採用試験の問題をコピーさせていただいたり。

小松美由妃さん(以下小松):私も月に1回くらい問題をコピーさせてもらいに来ます。

茂木:みなさんは教員採用試験の勉強中だと思いますが、今就職に向けてどのようなことに取り組んでいますか。

齊藤:スタージュでは、学校の先生方が面接の仕方とかを教えてくれるので、志望動機とか聞かれたらなんて言おうかというのを考えたり。

小松:自分自身は今教職教養の勉強をしていますね。あとは、今の時期は勉強も大切だけど、勉強とは違うこと、ボランティアとかもやったほうがいいって言われているので、冬休み中に学校へボランティアに行ったりもしていました。

小林:私も障害のある方の余暇支援というボランティアを学校でやっていて、そちらへ参加したりしてます。

茂木:それでは最後に保護者の方にメッセージをお願いします。

齊藤:親は私たちみたいに実際に勉強したり講座受けてるわけじゃないので、すごい心配してるだろうし、わかんないだろうなって思うんです。けど自分でがんばるしかないの。自宅生で(身の回りのことを)やってもらってるだけでありがたいので、決められるようにがんばりたいです。

小林:教職希望なので一般の企業とは違うんですけど、ニュースを見てると就職氷河期とか両親は心配になると思うし、一般の企業と採用の仕方も違うので、今年一年こういうふう動くよってのを説明すると、両親も今の時期はこういうことをしてる

んだなっていうのわかってくれたり。

あと、両親が新聞をとってくれているので、新聞を読めってもっと私たちに言ってほしいです。両親はもっと読んでいるので、教育に関係していることとかを食卓で話題にできるといいのかなと思います。親の意見を聞くと自分の意見と違うことがあったり、親の目から見たらまたちょっと違う理解の仕方もあるのかなって。まだ3年生なのでいろんな人の意見を聞くってことも大切だなと思うので。

小松:私はずっと地元にいるんですけど、たぶん就職するってなると秋田を離れることになると思うので、親は「あなたのやりたいようにやりなさい」って言ってきて、ありがたいんですけど、申し訳ないなって気持ちもあって、その狭間で揺れています。一回腹を割って話せばいいんですけど。だけど、自分のやりたいようにやりなさいって言うってくれるのは、すごいありがたいことだなって思いますし、だからこそ就職の幅も広がると思います。

茂木:ありがとうございました。

縁あればこそ (旭水会のご案内)

旭水会会長 大友 康二



それぞれが、それぞれの思い出を大切にしているように、もし組織という目に見えないものにも思い出があるとすれば、私達より、ずっと長く遠く、そして広く世界を見てきたことでしょう。

旭水会の組織は、ことばで表現すれば、そんな形のもんです。

同窓の共通の思い出を集約し、ひとりひとりに語りかけてくるような存在なのです。

大学に事務局(本部)があり、各郡市と東京・静岡・千葉の各支部で活動しています。

会員相互の親睦をはかると共に、教育・文化の振興に寄与するを目標としておりますが、実際には年令を超え人生謳歌のできる楽しい集いです。堅苦しさもなく、この集いを待っている楽しみの会なのです。

年一回発行の機関紙「旭水」は、自画自讃になりますが、内容の充実さで他に類がないと、そのレベルの高さで絶讃されております。

在学生との交流は卒業時、卒業式当日の午後「卒業を祝う会」を主催しています。卒業生の殆ど、またその保護者も参加できますので、懇親祝賀会はすごい盛り上がりを見せております。もちろん教員各位も参加してくれますので保護者の方々が一番喜んで来ています。

卒業を祝う会へのご参加のご案内もかねて旭水会の紹介といたします。



記念演奏会で演奏する卒業生の柳生和太さんと伊藤朱美さん

第1回 ホームカミングデーの開催について

広報・地域連携推進委員会 佐川 馨
地域連携推進専門部会 座長

ホームカミングデー…？。何となく意味は分かるものの、あまり馴染みの無い言葉かもしれません。ホームカミングデーとは、「卒業生の皆様方を母校にお招きし、大学の近況に触れていただくとともに、旧友や恩師、在学生や教職員との交流・親睦を通して母校との絆を一層深めていただくことを目的として行われる行事」です。卒業生との交流を通じた地域貢献および教育活動の一つとして、ここ数年、多くの大学で行われるようになってきました。

教育文化学部では、昨年10月23と24日の二日間にわたって、旭水会との共催で第1回ホームカミングデーを開催しました。23日には前秋田県教育長の小野寺清先生(昭和38年卒業)による記念講演、24日には日本フィルハーモニー交響楽団チューバ奏者柳生和太さん(平成19年卒業)と県内在住の若手ピアニストのホープ伊藤朱美さん(平成21年卒業)による記念演奏会が行われました。記念演奏会では成田為三作曲の《浜辺の歌変奏曲》も演奏され、師範学校から今日までの本学の歴史と人材輩出を再認識しています。

両日も大学祭に合わせて開催しましたので、さまざまなイベントもお楽しみいただけたことと思います。23年度も大学祭の時期に合わせて開催する予定です。昨年以上に旭水会との連携を図りながら進めてまいりたいと思います。

卒業生の皆様、是非ホームカミングデーにお出でください。母校での懐かしく、楽しい一日を過ごしてみませんか。

編集担当より一言

創刊号ではまだ愛称もなくモノクロだった情報誌も、今号から「ひだまり」という愛称が決まり誌面もカラーになり、だいぶ情報誌らしくなりました。

今号のテーマは「就職活動」。編集にあたり「今、保護者の方々が知りたいこと」を第一に考えたときこのテーマが浮かびました。就職活動体験談や就職活動中の学生へのインタビュー、教育文化学部の就職活動支援について等、就職活動に関連する情報を中心にお届けしましたがいかがでしたでしょうか。

次号以降も「保護者の方々が知りたいこと」を第一に情報をお届けします。今号の感想、次号以降載せてほしい情報等々なども結構ですので、どうぞご意見・ご感想をお寄せください。

(教育文化学部事務総務担当 茂木)

愛称決定

前号にて募集のお知らせをしておりました本誌の愛称が決定しました。

審査の結果、採用されたのは、教育文化学部国際言語文化課程3年次の齊藤美香さんの「ひだまり」です。2月15日に教育文化学部長室にて表彰式を行い、齊藤さんへ学部長から賞状及び副賞の図書カードが贈呈されました。

受賞後、齊藤さんは「採用されて光栄です。教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆さまにその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けました。」と、喜びの言葉を述べてくれました。



表彰式後の記念撮影

(左:立花広報・地域連携推進委員長, 中:齊藤美香さん, 右:池村学部長)

大学・学部関係行事予定(平成23年3月～)

- 3月23日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 3日 春季休業終了
- 4月 4日 開設講義一覧・成績単位修得表等交付
在来生ガイダンス
- 4月 5日 入学式
- 4月 6日 新入生ガイダンス
- 4月 7日 授業開始
定期健康診断4年生・教育学研究科
- 4月14日 定期健康診断1年生・新編入生
- 5月 9日 定期健康診断3年生
- 5月10日 定期健康診断2年生
- 6月 1日 創立記念日
- 8月11日 夏季休業開始
- 9月30日 夏季休業終了・前期終了
- 10月 3日 後期開始
- 12月26日 冬季休業開始
- 1月 8日 冬季休業終了
- 1月12日 センター試験のため臨時休業(1月15日まで)
- 2月22日 春季休業開始
- 3月22日 卒業式
- 3月31日 後期終了

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

ひだまり
Vol.2

平成23年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
〒010-8502 秋田市手形学園町1の1
平成22年3月1日創刊

<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>